

令和7年度 学校教育自己診断の分析・考察

【学習指導等】

- ・生徒「授業は分かりやすくなるためになる。」は 77% [79%] であった。教員「授業力向上のため、工夫・改善に努めている。」が 100% [90%] と大幅に上がったが、生徒と教員のポイントの差が何に起因するのかを考える必要がある。

生徒「一番望む授業」については

- ①高校生として基礎学力が身につく授業
- ②生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整する授業
- ③進路希望が実現できるように学力を高める授業

の順番であった。教員にも「授業で一番気を付いていること」について尋ねたところ、生徒、教員ではともに①がトップ、②が次いでいる。生徒のポイントでいうと、①が昨年度 39% から 47% と大幅に伸びた。教員も 54% から 58% と伸びている。基礎学力をつけたいというニーズの増加に対して、教員が応えようとしていることが数値にあらわされている。

【進路指導・生徒指導等】（※以下 [] 内は前年度結果）

- ・生徒「学校へ行くのが楽しい」が 79% [80%] となりポイントが高いレベルだが下がった。否定的な層がどの学年にも 20% 程度いることに注視していく必要がある。
- ・生徒「進路を考える機会があり、進路指導を適切に行っている」が 88% [89%] と高いレベルを維持できている。進路指導部、3 学年担任団の丁寧な指導が評価されている。
- ・生徒「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」 83% [86%] であった。各担任、学年団、教育相談などが連携して生徒対応した結果が表れた。

【学校運営】

- ・教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は 78% [69%] となった。生徒層の変化に合わせて、教員が力を合わせて対応しようとしている結果である。
- ・教職員「教職員は生徒の意見をよく聞いている」が 97% [92%]、一方生徒「本校の校長、先生達は学校をより良くしようと頑張っている」が 86% [86%] となった。教職員の生徒に寄り添う姿勢がポイントに表れた。これを継続するようにしたい。